

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】平成20年7月10日(2008.7.10)

【公表番号】特表2004-510695(P2004-510695A)
 【公表日】平成16年4月8日(2004.4.8)
 【年通号数】公開・登録公報2004-014
 【出願番号】特願2001-585770(P2001-585770)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)
 A 6 1 K 31/221 (2006.01)
 A 6 1 K 31/27 (2006.01)
 A 6 1 K 31/341 (2006.01)
 A 6 1 K 31/429 (2006.01)
 A 6 1 K 31/455 (2006.01)
 A 6 1 K 31/465 (2006.01)
 A 6 1 K 31/55 (2006.01)
 A 6 1 P 29/00 (2006.01)
 A 6 1 P 43/00 (2006.01)
 C 0 7 D 211/72 (2006.01)
 C 0 7 D 307/20 (2006.01)
 C 0 7 D 401/04 (2006.01)
 C 0 7 D 491/06 (2006.01)
 C 0 7 D 513/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 31/221
 A 6 1 K 31/27
 A 6 1 K 31/341
 A 6 1 K 31/429
 A 6 1 K 31/455
 A 6 1 K 31/465
 A 6 1 K 31/55
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 43/00 1 0 5
 C 0 7 D 211/72
 C 0 7 D 307/20
 C 0 7 D 401/04
 C 0 7 D 491/06
 C 0 7 D 513/04 3 3 1

【手続補正書】
 【提出日】平成20年5月16日(2008.5.16)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

哺乳類細胞からの炎症誘発性サイトカインの放出を阻害する方法であって、前記細胞から放出される前記炎症誘発性サイトカインの量を減少させるのに十分な量のコリン作動薬で前記細胞を処置することを含み、前記細胞はマクロファージである方法。

【請求項 2】

前記炎症誘発性サイトカインは、腫瘍壊死因子 (TNF)、インターロイキン (IL) - 1、IL - 6、IL - 18 および HMG - 1 からなる群から選択される請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記炎症誘発性サイトカインは TNF である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記コリン作動薬は、アセチルコリン、ニコチン、ムスカリン、カルバコール、ガランタミン、アレコリン、セビメリン、およびレバミゾールからなる群から選択される請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記細胞は、炎症性サイトカインカスケードにより媒介される症状を患っているか、またはその危険がある患者内にある請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記症状は、虫垂炎、消化性潰瘍、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、腹膜炎、膵炎、潰瘍性、偽膜性、急性および虚血性の大腸炎、憩室炎、喉頭蓋炎、アカラシア、胆管炎、胆嚢炎、肝炎、クローン病、腸炎、ホイップル病、喘息、アレルギー、アナフィラキシーショック、免疫複合体疾患、臓器の虚血、再灌流傷害、臓器の壊死、枯草熱、セブシス、敗血症、エンドトキシンショック、悪液質、異常高熱症、好酸球性肉芽腫、肉芽腫症、サルコイドーシス、敗血性流産、精巣上体炎、膣炎、前立腺炎、尿道炎、気管支炎、肺気腫、鼻炎、膿胞性線維症、肺炎、肺塵症、肺胞炎、細気管支炎、咽頭炎、胸膜炎、副鼻腔炎、インフルエンザ、呼吸器合胞体ウイルス感染、ヘルペス感染、HIV 感染、B 型肝炎ウイルス感染、C 型肝炎ウイルス感染、播種性菌血症、デング熱、カンジダ症、マラリア、フィラリア症、アメーバ症、包虫嚢胞、火傷、皮膚炎、皮膚筋炎、日焼け、じんま疹、いぼ、膨疹、血管炎、脈管炎、心内膜炎、動脈炎、アテローム性動脈硬化症、血栓性静脈炎、心外膜炎、心筋炎、心筋虚血、結節性動脈周囲炎、リウマチ熱、アルツハイマー病、セリアック病、鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群、髄膜炎、脳炎、多発性硬化症、脳梗塞、脳卒中、ギラン - バレー症候群、神経炎、神経痛、脊髄損傷、麻痺、ブドウ膜炎、関節炎疹、関節痛、骨髄炎、筋膜炎、パジェット病、痛風、歯周病、リウマチ様関節炎、滑膜炎、重症筋無力症、甲状腺炎、全身性エリテマトーデス、グッドパスチャー症候群、ベーチェット症候群、同種移植の拒絶反応、移植片対宿主病、I 型糖尿病、強直性脊椎炎、パーガ病、I 型糖尿病、強直性脊椎炎、パーガ病、ライター症候群、ならびにホジキン病からなる群から選択される請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記症状は、虫垂炎、消化性潰瘍、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、腹膜炎、膵炎、潰瘍性、偽膜性、急性および虚血性の大腸炎、肝炎、クローン病、喘息、アレルギー、アナフィラキシーショック、臓器の虚血、再灌流傷害、臓器の壊死、枯草熱、セブシス、敗血症、エンドトキシンショック、悪液質、敗血性流産、播種性菌血症、火傷、アルツハイマー病、セリアック病、鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群、脳梗塞、脳卒中、脊髄損傷、麻痺、同種移植の拒絶反応、ならびに移植片対宿主病からなる群から選択される請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記症状はエンドトキシンショックである請求項 6 に記載の方法。

【請求項 9】

化合物がコリン作動薬であるかどうかを決定するための方法であって、前記化合物が哺乳類細胞からの炎症誘発性サイトカインの放出を阻害するかどうかを決定することを含む方法。

【請求項 10】

前記細胞はマクロファージである請求項9に記載の方法。

【請求項 11】

前記炎症誘発性サイトカインはTNFである請求項9に記載の方法。